

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京医科歯科大学

前期日程

科目

物理

総括

試験時間	2科目 120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

全2題構成。保健衛生学科が途中の設問まで、医学科・歯学科が全問解答する形式がここ数年で定着している。力学と電磁気の標準的な内容が問われており、受験者層を考慮すると、合格には高い得点率が要求されるであろう。

〈特記事項・トピックス〉

2題とも、解答に至るまでの過程を記述する。また、昨年同様のグラフを描く問いが本年度は3つ出された。

〈合格への学習対策〉

ここ数年、高校課程における基本的な内容・題材からの出題が続いている。ただし本学の受験者層を考えると合格には高得点が必要であり、標準的な問いをミスなく解く力や、複雑な計算をやりきる力をつけておかななくてはならない。その上で、少々レベルの高い問題を経験しておくといよいであろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述 + グラフ作成	I + II	単振動, 円運動, 慣性力	動く実験室内での見かけの力(慣性力)の考察が必要だが、それ自体はあまり問題なかろう。問1から問4までは基本的。問5の円錐振り子では少々計算が必要。問6から問9の鉛直面内円運動も計算量があるが、グラフ作成も含めて確実に解ききりたい。全体として重いテーマはなく、本学の受験生であれば高得点が要求される。	易
2	記述 + グラフ作成	I + II	コンデンサー, 誘電体の挿入	コンデンサー回路の操作を扱った問題。問1と問2は基本的で、ミスは許されない。問3以降は問われている内容自体は基本的なのだが、操作が次々続くので、不変量の見極めを誤ると致命傷になる。次第に計算量も増していくため、途中からの雪崩的な失点が怖い。電気量分布、電位差の関係を着実に立てること。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。